

(社) 日本雪氷学会 氷河情報センター
公開シンポジウム

■名称

「日本の多年性雪渓と氷河 ―これまでの研究と今後の展望―」

■主催 (社) 日本雪氷学会 氷河情報センター

共催 立山カルデラ砂防博物館

■趣旨

立山劔岳で現存する氷河の可能性が示されたのを機に、国内の多年性雪渓の研究史を振り返り、氷河が現存するかどうかを議論する。あわせて、国内の多年性雪渓・氷河研究の今後の展望についても議論する。

■場所

富山県民会館会議室 (JR 富山駅から徒歩 5 分)

<http://kenminkaikan.com/zumenko/pdf/syuhen.pdf>

定員 100 名程度

参加無料 申込み不要

■日時

6 月 30 日 (土) 10:00~16:00

■日程 (案)

【第 1 部】

○日本の雪渓研究史

10:00~10:30 : 岩田修二

「日本における、いわゆる雪食地形と多年性雪渓研究史」

○立山劔岳における多年性雪渓研究

10:30~10:50 : 飯田 肇 「立山内蔵助雪渓、劔沢はまぐり雪の氷体研究」

10:50~11:10 : 福井幸太郎 「立山劔岳の現存する氷河確認調査」

11:10~11:30 : 藤井理行

「北アルプス内蔵助雪渓から考える豪雪山岳地域の氷河形成論」

11:30~11:50 : 小野有五 「立山における平衡線高度の推定」

【昼食】 11:50～13:00

○日本における多年性雪渓研究

13:00～13:20 : 高橋修平 「大雪山「雪壁雪渓」の観測研究」

13:20～13:40 : 河島克久

「日本の多年性雪渓における氷体形成機構－温暖氷河との共通点・相違点－」

13:40～14:00 : 成瀬廉二 「流動の視点から考える雪渓・氷河問題」

【休憩】 14:00～14:30

【第2部】 総合討論「日本の多年性雪渓の諸問題」 14:30～16:00

14:30～14:40 問題提起 澤柿教伸

14:40～16:00 討論

コーディネータ 上田 豊

パネラー 発表者

■連絡先

〒060-0819 札幌市北区北19条西8丁目 北海道大学低温科学研究所
白岩孝行 電話 011-706-7664 shiraiwa@lowtem.hokudai.ac.jp

〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峯寺字ブナ坂68 立山カルデラ砂防博物館
飯田 肇 電話 076-481-1363 iida@tatecal.or.jp